

不登校 2年連続増

昨年度・文科省調査 小中生12万2902人

文科省は増加の原因を詳しく調べる方針だが、子どもを無理に登校させず、フリースクールに通学させるなど選択肢が広がる傾向にあることも一因としてありそうだ。

中等教育学校を含めた中学生の不登校は1594人増の9万7036人で、全中学生に

学校以外の居場所拡大

学校基本調査で、不登校の小中学生が2年連続増加したことが分かった。不登校解消のため、家庭訪問やスクールカウンセラー配置などに取り組む事例が多いが、学校以外の「居場所づくり」も広がりを見せており、同省幹部は「無理に学校に行かなくても、他の選択

に対する割合は2・76% (36人に1人)だった。1年以上所在が分からない小中学生は今年5月1日時点で123人。文科省が調査の徹底を通知した11年には1191人だったが、各教育委員会が警察や福祉部局などと連携して把握を進めて減少を続けている。

肢があることが認知されてきている」と話す。「もう一度最初から

合わせようよ」。大きなテーブルを囲み、楽器を演奏する子どもたちとスタッフの女性が話し合う。そばには好きなアニメの話題に夢中の小学生と高校生も。川崎市のフリースクール「フリースペースえん」には、不登校の子どもを中心に毎日30〜40人が訪れる。午

前中から夕方まで、子どもたちの時間の過ごし方はさまざま。勉強したり、外の遊具で遊んだり、ゲームをしたり。昼食はみんなで献立を考えて調理するが、買ってきたものを食べる子どももいる。現在、100人以上が会員登録している。

中学2年の藤井里名さん(14)は「自分は学校が合わなかったけど、合う場所がここだった」と毎日姿を見せる。

運営するNPO法人「フリースペースたまりば」理事長の西野博之さん(55)は「自己否定感を募らせている不登校の子どももいる。ここではやってみようことに挑戦して、何もしないことも保障される」と話す。学校生活になじめな

かった子どもが、ここでは生き生きと過ぐす。西野さんは「本当は学校に行きたくても現実には行けない子がいる中で、学校だけが

育ちと学びの場ではないことを、大人も考え始めつつあるのではないかと指摘した。

文科省が把握するフリースクールなどの民間教育団体・施設は全国に474あり、うち319の団体・施設に3月時点で義務教育段階の子ども4196人が通っている。

2014年度に病気や経済的理由以外で年間30日以上欠席した「不登校」の小中学生は、前年度より32285人増の12万2902人で、2年連続で増加したことが6日、文科省の学校基本調査(速報値)で分かった。小学生は1691人増の2万5866人で、全児童に占める割合は0・39%(2555人に1人)と過去最高となった。

小中学生の不登校は08年度から5年連続で減っていたが、13年度から増加に転じた。全小中学生に対する割合は82人に1人に当たる1・21%だった。これまでで最も多かったのは01年度の13万8733人。